

## 小学生の部

### 美棹賞 (金賞)

佐藤美由紀さん  
大胡東小5年

#### おどる

おどる、みんなおどる。  
初めに、風がおどります。  
それを見た草や木の葉がおどります。

また、それを見た虫たちがおどる。  
風はずっとずっとおどりをはこび、  
やがて海にたどりつく。  
波がおどる、貝や魚がおどって  
深いところの海藻もおどる。  
風はまだまだおどりをはこび、  
海をこえ、町にたどりつく。  
家がおどる、犬や人間もおどる。  
みんなみんなおどる。  
風ってすごい。  
おどってすごい。  
そう考えたら楽しくなって、  
私もおどった。  
おどった、みんなおどった。

## 中学生の部

### 美棹賞 (金賞)

阿部智里さん  
荒砥中2年

#### とんぼと羽

ひどい朝です。  
羽が落ちています。  
昨日のオニヤンマの、  
羽です。  
羽が落ちています。  
一晩目を放したススキに、  
ありに喰われました。  
腹いっぱい、  
喰われました。  
羽だけ、  
残りまし  
残った羽は、  
とても小さいです。

アリも、  
人も、  
わたくしも、  
いつかはあなるのでしょうか。  
羽は、  
冷たそうにすきとおって、  
はかなげで、  
今にも消えてしまいそうです。  
オニヤンマよ、  
痛かったか。  
泥にまみれて、  
苦しかったか。  
理不尽だと思ったか。  
なあ、オニヤンマよ。  
それなのに羽は、  
雨あがりの澄みきつた光をつけて、  
とてもきれいであります。  
アリも、  
人も、  
わたくしも、  
いつかはあなるのでしょうか。

## 11月12日に前橋文学館で 賞の贈呈式と朗読会



昨年の朗読会で

美棹賞から入選まで、入賞者の皆さんが一堂に集まる贈呈式と、入賞者や選考委員・推薦委員たちの詩の朗読会を開きます。

#### 第9回若い芽のポエム贈呈式

日時 = 11月12日 午後1時～1時40分  
会場 = 前橋文学館

#### 朗読会

日時 = 11月12日 午後1時50分～3時30分  
会場 = 前橋文学館 内容 = 入賞者と選考委員・推薦委員、一般参加者による詩の朗読

## 高校生の部

### 美棹賞 (金賞)

仁井麻衣さん  
東京文化高2年

#### 「私の善福寺川」

秋になって台風が来ると やぐら橋のあたりで、川が はんらんし一面の水の中を風に向かって歩いたことがあった。  
仲良しの女の子が足をとられて転び、ずぶぬれになった。家の近くまで来た女の子の母親が飛び出してきた。  
抱えるようにして連れ去るのを見ていたら涙がこぼれだし止まらなくなった。  
もういない母をどこかで探していたのかも。  
川のまわりの木が色づいてきて水中の水草までが紅葉していた。  
葉を濡らす絹糸の雨が 優しい音をたてて川面に さざ波をたてていた。  
橋の上で川を見おろしながら その女の

人は身じろぎもしなかった。  
小さかった私は 嫌な予感がしてきて動けないでいた。  
もういない母を だぶらせていたのかも。  
橋の上で お坊さんが読経していた。  
放水量を多くしたせいか ふだんより水かさが増した川に人が集まっていた。  
精霊流しが始まると それぞれに浮かべた灯籠が静かに流れ出した。  
合掌する人達に混じって私と同年代に見える六才くらいの女の子が手を合わせて何か小声でつぶやいていた。どつしてか涙があふれてきて恥ずかしかった。  
もういない母に会いたくなかったのかも。  
お誕生会に呼ばれて帰りぎわに 彼女のママからケーキを手渡された。  
橋の上に来たら何故だか くやくしくなってケーキの箱を川に投げ捨てていた。  
もういない母に怒っていたのかも。  
庭続きの川には悲しい思いでばかりでも見つめてみると、心がゆるる。  
そうだ。善福寺川は私の川なのだ。